

第 63 代理事長 三輪 洋平

基本理念

自らの心を学びに向かって選択していくこと

スローガン

学び

～学びに対して積極的な行動を心がけよう～

基本方針

1. 過去から学ぶ交流
2. 仲間意識を育む渉外
3. 未来を担う青少年の育成
4. まちぐるみのまちづくり
5. 社会変化とひとづくり
6. 会員拡大の重要性

所信

■はじめに～青年会議所の存在価値～

昨今の世界的不況は歴史上類を見ない影響を人類に与え、青年会議所も運動を見直されるほどの歴史的状況にあるといえます。しかし、戦後の不況から生み出された青年会議所であることから今の状況をどう打開するか我々の真価が問われているのではないのでしょうか。青年会議所は、明るい豊かな社会の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの指導者たらしとする団体です。我々は「新日本の再建は我々青年の責務である」という創始の精神の下、いかなる状況においても社会にどう貢献するかを考え、日常の活動の場を通して我々自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体でなくてはなりません。

■過去から学ぶ交流

我々の団体は長きにわたる伝統を有した団体です。先輩方が団体を紡いできて来られ、関係諸団体との連携を継続してきていただいたからこそ、今我々が活動できていることを忘れてはいけません。その歴史の中には様々な状況があり、困難と闘ってきた過去もあるでしょう。温故知新という言葉が昔からあるように、古きを学び考えることで今の時代を生きるヒントとすることはとても有効な手段なのです。価値観の多様化が著しい現代においてもなお人間の尊厳は変わらないと信じております。

■仲間意識を育む涉外

全国各地・世界各地に青年会議所が存在し、各地の青年会議所やそのメンバーは風土の違いでそれぞれ多様な価値観を持った団体・個人に成長し、相互に高め合える同志が各地にたくさんいます。我々もその一つであり、同志の運動には積極的に参加し、ともに運動を盛り上げていく責任があります。また、同じ環境、風土で育ったメンバーで構成される青年会議所は、ともすれば凝り固まった思考によって真に革新的な事業・例会にたどり着かない恐れがあります。積極的に県内外や世界と相互交流を通して見識を深め、LOMの活動さらには実生活の発展に役立てていただきたいと思えます。

■未来を担う青少年の育成

近年の子供たちは核家族化の増加による祖父母等と触れあうといった機会や少子化の進展によって友人同士で遊び、切磋琢磨したりする機会が減少しています。また、地域社会においても、地縁的な繋がり低下や人間関係の希薄化が進むなか、子供たちの心の成長の糧となる生活体験や自然体験の機会が減少しています。さらに、生活スタイルも自然環境

から遊離してきており、人間が当然に有するべき逞しさや自他の生命の尊重の精神を身につける機会が奪われていることや子供たちの人間関係を構築する力や社会性の減少といった問題も指摘されています。

子供たちが豊かな人間性を育むためにまずは、身近な大人たちが子供たちの目にはどのように映るかをよく考え、自らの言動を振り返り、必要に応じて改善するなど、大人自らが率先して意識変革を促さなくてはなりません。そのうえで子供の持つ力、成長する力を信じ、子供同士で体験し、多様性を学び、お互いを大切にすることを学ぶ機会を創造していくことが我々青年会議所の使命であるといえます。

■まちぐるみのまちづくり

少子高齢化、人口減少により、地域コミュニティや商店街・繁華街などの衰退が進み、大都市圏への人口流入や地域間格差の拡大などがさげられるなか、地域が抱える課題の検証に基づく持続可能な地域づくりを目指す必要があります。

青年会議所は単年度制であり、持続的な事業・例会をするには難しい現状はありますが、官民一体となって、地元住民も巻き込んで事業を進めることができるかが重要であり、千葉市との連携や関係諸団体との協議によって、まちのニーズを取り入れたエビデンスに基づく事業を展開し、その結果、その地域が自発的に問題に取り組もうという姿勢や持続的に参加する意識を作り出すことこそ我々の行うべきまちづくりだと考えます。

■社会変化とひとつづくり

昨今の世界情勢のように、現時点では想像もつかない社会変化がこの先も訪れないとは言いきれません。そのようななかで生きる私たちに求められることは、社会経済のグローバル化や高度情報化、少子高齢化、社会の階層化などの時代の潮流の中にあっても、新しい時代を切り拓いていけるひとつづくりを目指し、いかなる社会変化に直面しようとも、その社会変化を前向きに受け止め、主体的に生き抜くことを通して、新たな社会の創造に寄与できる力を身に付けることです。そのためには、どのような状況であっても自己の目標を実現しようとする意欲や自己の行動に対し自らが責任をとっていく態度、人生を主体的によりよく生きようとする意欲や態度が求められ、固定観念にとらわれない多面的な視点や柔軟で創造的な発想による問題解決の能力、また、自らを律しつつ、他（人、自然）と協調する力や他人を思いやる心、さらには、人として生きるための倫理観などの豊かな人間性とコミュニケーション能力、人間関係形成力を養うことが必要であると考えます。

■会員拡大の重要性

近年、全国的に青年会議所の会員数は減少し続けており、千葉青年会議所も入会者数が低迷しております。団体の性質も相まって会員の縮小は免れず、会員の拡大をしなければ組織として存続すらできないことから会員拡大は急務であるといえます。

会員拡大がなされることによって、組織の活性化や活動意欲向上につながることは言うまでもなく、多種多様な価値観を受け入れ、自分を見つめ直し、社会性を身に着ける機会となり、結果的に明るい豊かな社会へ導くために切磋琢磨した青年会議所での経験を携えた人財を一人でも多く世に排出することこそ、明るい豊かな社会の実現の近道だと信じます。メンバーは自信をもって入会のメリットを発信できるまでに活動に対する意欲を向上させ、OB 特別会員の方々と連携を図り、ともに会員拡大を推進していくべきだと考えます。

■結びに

人生における最大の課題は成長し続けることだと考えます。成長の前には必ず学びがあり、学びの前には困難を乗り越えることや未経験への挑戦が伴うこともあるでしょう。しかし、我々は市民の先頭に立って地域をよりよくするために活動をしているのですから、我々が困難を恐れ、挑戦することをやめてはいけません。その積極的な姿勢は地域へと還元され、地域をよりよいものにできると信じています。

青年会議所はありとあらゆる成長への機会を提供してくれます。私も青年会議所に入って多くを学ばせていただいた一人です。20代、30代は人生の試行錯誤ができる最後の期間といってもよいでしょう。その期間に仕事以外でも己に負荷をかけ、主体的に己を磨いていこうではありませんか。まちの未来、子供たちの未来、日本の未来は今ある我々の熱い思いにかかっているのですから。